

# 常 新 報

刊 夕 日 七 廿 月 六

發行編輯人 川崎文治

福島縣石城郡平町字長橋町廿五番地

發行所 常警毎日新聞社

定価 一月一元二角 三月三元五角 半年六元 一年十二元

印刷所 福島縣石城郡平町田町廿六番地

電話 一〇〇 活版所

## 流水錦 琵琶教授

平手錦部 平手錦鞭

平手町六十五番地

### 常警文藝

#### 惱み

飯村閑舟

惱み訪ぬる友人の窮迫か、また臆うげの戀の時境や廻り哀訴をこいにたゞ一人友の已を風鈴の初夏思ひ熱し魅す頼りか苦悶解く謎かさりとして己心なき曙光の道拓きなきおのれも惱み答へなく慰撫の言葉友人に投げ響く間も待ちあらず空虚の死線踏み蹴りて想像や慄つと襟際の皮膚寒けよつ海突の岬の崖の尖端に足らして岩砕のもぐつと消ゆとうそぶきる友の心はくみやれど死にうそぶし心はを若人勇の根氣なき野に青く草の眞晝時熱い陽日に照されて萎れ乾燥の策氣なき氣象と見做す吾が心愛しもあらぬ木の友の心に諭しやるニッコリ笑ふ瞳には輝へ未然、甦へり(完)

## 和久井屋漆器店

平町一丁目 電話四〇五番

漆器指物 漆器店

### 阿部醫院

平町字新川町 電話五六七番

皮膚科 泌尿科 外科 梅毒科

### 丸屋足袋店

平町一丁目

白染新 白立し 白格子 手ぬい中形 正絹遠州じま 紺染新 伊多新長尺

丸屋足袋店

### 常識の訓練(一)

中山雅司

寄書

人智の進歩は肉眼の缺を補ふ蟲眼鏡を造り、顯微鏡や望遠鏡を發明した、これからは更に進んで俗眼の缺を補ふ賢眼鏡、心眼鏡とも名づくべき物を創造發明して複雑煩瑣な社會の組織や秩序井然と稱する世の中の構造を其眼鏡に依て仔細に觀察し、そうして世態人情の機微を穿つた道を進まねばならぬ、即ち其缺陷を埋むるが爲めに、良き着想を得なければならぬ

良き着想を得るには能く

常に學ぶ事、以外に常識の豊富を圖らねばならぬ、直接現在の生活に必須なる物は勿論表面の觀察と裏面の見聞を廣めねばならず、仁義忠孝の一徹以外卑賤俗韻の書にも時として眼を貸すの要がある、また一事にのみ熱中没頭するは特殊の研究をなす者に取つては至極必要であるが、それも程度の問題で餘り極端に失する時は却て危隊を齎らす憂ひがある、況んや主として實社會に觸れ衆愚に伍して行かうとする者に取つては、眼界の狭ひのは甚しい不利である、孔子も『思ふて學ばざれば則ち殆し』と謂つた

通り眼界が狭いにも拘はらず奇功を制さうとする者は氣の毒だが自滅の他はない蜂の足だか、蠅の足だかの研究に没頭して居た爲めに、日露戦争を知らなかつたと言ふ學者がある、これは如何にも學者氣質の好範例であるが、何人にも以て教ふべき行ひではない、また某教師は得意の歴史教授が身が入つて階下で火を失したのを氣付かなかつた、應て火は二階を越え初めたそこで大狼狽の果遂に五名の負傷者一名の即死者を出した、物に熱心固より良い事ではあるが時としてかういふ危険が伴ふ

## 品質の金庫は

東京荒木製に限る

高野得助商店

電話三三六番

御申込次第カタロク進呈仕候

最高級「サクク」萬年筆

需要者渴求の的となれり

百萬言の嘘言より

一つの事實は尊し

平町三丁目 高倉萬年筆製作所

## クースーリ

関内藥舖

藥劑師 関内栄助

電話四〇番

## 酒 鶴仙 松吉屋本店

石城郡平窪村

電話二四一番

開業大賣出し 銘香久山 最上味噌醬油 會津味噌醬油

大勉強!!! 金澤屋酒店 薄利多賣

奥様方に 洗濯をしながら大徳印コナになる様に願ひます 重寶で経済です

### 株 買 中 値

左記の値段は日本の標準値に付御用の節は御問合願候

銘柄	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	七三〇
磐城銀行	一一五	一〇五
磐城銀行	三〇〇	二九五
田村實業	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七〇
農工銀行	二〇〇	二四五
同 新	一五〇	一八八
同 新	五〇〇	五五〇
同 新	二二五	一六〇
同 新	二二五	九八
同 新	五〇〇	三八五
同 新	二二五	一八〇
同 新	二二五	七三
只見川電	一一五	一一五
植田水電	一一五	一四〇
好問水電	一一五	一五五
磐城製菓	二〇〇	六〇
磐城製菓	五〇〇	三五〇
植田物産	一一五	一三五
平製水	三〇〇	二八〇
好問軌道	五〇〇	三五〇
入山新	三三五	一七〇
小田炭礦	二五〇	一一〇
磐城炭礦	五〇〇	四三〇
同 新	二二五	一九〇
磐城セメント	五〇〇	六八〇
同 新	二五〇	三七〇
同 新	一一五	八〇

東新株 先限 實物

前場後場共入電致居候

平町田町 電話三三三番

丸登株式会社

川添房二郎

### 石井東日通信員が

## 謝罪書を公衆に示す

平町民を侮辱した段

誠に面目次第無之とて  
多数の意嚮に敵し難く

大瀧發電所許可取消運動に  
關し一部利権組の傀儡に依  
つて殊更らに同運動の達成  
を阻害せんと嘘萬八の筆を  
弄し讀者を惑はすが如き

### 新聞あ

らば是れ平  
町を毒するものにして貴重  
なる天職を忘れ斯かる虚報  
を敢て爲す新聞通信員の  
存在は惜んでも餘りあるも  
の爲し是れが對抗策として  
不買同盟を形成すべき意  
嚮漸次擡頭するに至り昨日  
午後四時頃愛町の至誠熱烈  
なる數氏は帝都に於ける、  
大新聞たる東京日日新聞の

### 權威を

常に冒瀆す  
るが如き行動に出ずる平通  
信部員石井虎男に對し一度  
好意的なる忠告を試みざる  
べからずとなし同人の行先  
なる南町憲政俱樂部にて會  
見し數日來の同紙を示して  
其虚報も甚だしきを指摘し  
詰問の最中此事を聞き知つ  
た平町多數の町民は

### 日頃か

ら同人の通  
信記事に對し憤慨の念禁ず  
る能はざるものあつた爲め  
此際黙すべきに非らずと爲  
し同俱樂部に詰め掛け來り  
其數正に數百を以つて算す  
るに至り形勢刻々險惡化す  
るを以つて先きの數氏は多  
數の群衆が公憤に駆られて  
如何なる行動に出すべきや  
も測り知れない爲め

にては廿九日午後一時から  
聚樂館にて運動経過報告會  
を開き出縣請願團の活躍及  
び行政訴訟提起の顛末等に  
關し夫々委員の報告演説及  
び協議ある由

### 出縣請願團の

## 寫眞を陳列

平和堂にて

平町田町有聲座前平和堂に  
ては出縣請願團の狀況を撮  
影した寫眞出來上つた爲め

### 湯本にも水騒ぎ

## 飲料井戸全く枯れて

入山第五坑掘鑿の影響か

### 會社側に強硬談判

左記の通り

石城郡湯本町大字水の谷字  
千代鶴、小野彌惣吉外十四  
名の所有井戸廿八ヶ所數日  
前から全く枯渇し一滴の飲  
料水もなく多大の困難を感  
じて居るが是れは入山第五  
坑の坑道掘鑿作業進行の爲  
め地盤に變動を來した結果  
であらうと云ふので専門技  
術家の調査に待つて會社側  
に強硬談判を開始する由  
因に同部落の隣接龜の尾に  
ても漸次飲料井戸の湧出量  
減退しつつあるといふ

### 石炭實送高

去月中の噸數

常磐地方の各炭礦より五月  
中に般送した石炭實送高は  
廿四萬九千四百十四噸であ  
つて前月より三千七百四十  
二噸の増加を示し一月以降  
の累計は百十七萬五千五百  
六十五噸である

磐城炭礦總會 廿五  
日總會を開き年一割の配當  
案を附議可決した

### 委員が上京

許可取消運動

石城立憲青年會は大瀧發電  
所許可取消の運動に關し過  
般申合せた實行方法に基き  
中央當局に陳情の爲め本縣  
の選出代議士と打合せの結  
果廿九日に上京すべく決し  
た由

### 鎌田で遊興

平署が保護中

相馬郡松ヶ枝村大字原釜瀧  
澤澄次郎(三)は昨夜九時頃  
平町へ來り鎌田遊廓にて遊  
興中無斷家出の男と判明平  
署にて保護を加へて居る

### 小頭を殴る

平署嚴重取調

石城郡玉川村大字岡小名門  
馬園平(三)は同門馬忠作(三)が  
の兩名は去る五日頃同村消  
防小頭小松儀三郎と些細の  
事から口論を始め儀三郎に  
全治三週間を要する傷害を  
加へ平署にて取調中

### 不平受付

投書歡迎

遺失物の届 平署に遺失  
物の届に参りますと警官に  
イヤな顔をされるのが辛い  
ので遂に行かぬ事になるの  
ですが主なる拾得品は署  
前に掲示しては如何でせう

伊藤平署長の答 届け  
に來た場合署員がイヤな  
顔をすることは以つて外の  
事です充分注意をして置  
きませうまた拾得品の掲  
示も考へて見ませう

### ペスト警戒

平署の通牒

平署にては静岡縣下に於け  
るペスト益々蔓延の兆ある  
爲め管内全般に互り左の豫  
防警告を發した

▼ペスト傳染は鼠、ノミ  
南京虫、蚊等の媒介に因  
ること多きを以つて之が  
驅除を爲すこと▲ペスト  
菌を媒介する動物の棲息  
は米、雜穀類、糞糞、古  
新聞紙、疊表、雜貨等な  
るを以て當分の間該症地  
域より之れが移入を爲さ  
ざる事▲静岡縣に發生し  
たるは腺ペストの如し該  
疾病は普通二日乃至七日  
の潜伏期を経て惡寒戰慄  
を覺へ同時に劇しき疼痛  
ある腫脹を來し忽にして  
全身症状と化し重篤に陥  
るもの多し故に以上の症

### 昨日の地震

かなり強く

廿六日正午すぎ平地方にか  
なり強い地震があつた中央  
氣象臺の發表によると發震  
時刻は午後八分十分、初期  
微動時間九分十分、總繼  
續時間七分、性質弱震で震  
源地は東京の北東七十三キ  
ロ筑波山に近き結城附近に  
あたる

### 平町人事

死亡

△南町 齋藤雪子(三)  
△研町 當時石城郡津村佐藤慶夫  
(三)  
△立町 鈴木ナツ(六七)  
△胡麻澤 齋藤一郎(二)

### 常磐片々

民衆の公憤にドギモを抜か  
れて詫燈文を書いた無冠の  
帝王がある

斯ふした男の存在は同業者  
の面汚しと云ふべし

消えて無くなれドブ鼠

水道のない湯本町で水騒ぎ

水道の良水を有する平町民  
は如何なる感を以つて是れ  
を見る

入山採炭配當 廿五  
日株主總會開催年一割の配

### 同盟會寄附

馬目氏から

平町三丁目馬目勝次郎氏は  
大瀧發電所許可反對同盟會  
に金十五圓を昨日寄附した

### 飲料井戸全く枯れて

入山第五坑掘鑿の影響か

### 會社側に強硬談判

左記の通り

石城郡湯本町大字水の谷字  
千代鶴、小野彌惣吉外十四  
名の所有井戸廿八ヶ所數日  
前から全く枯渇し一滴の飲  
料水もなく多大の困難を感  
じて居るが是れは入山第五  
坑の坑道掘鑿作業進行の爲  
め地盤に變動を來した結果  
であらうと云ふので専門技  
術家の調査に待つて會社側  
に強硬談判を開始する由  
因に同部落の隣接龜の尾に  
ても漸次飲料井戸の湧出量  
減退しつつあるといふ

### 石炭實送高

去月中の噸數

常磐地方の各炭礦より五月  
中に般送した石炭實送高は  
廿四萬九千四百十四噸であ  
つて前月より三千七百四十  
二噸の増加を示し一月以降  
の累計は百十七萬五千五百  
六十五噸である

磐城炭礦總會 廿五  
日總會を開き年一割の配當  
案を附議可決した

### 委員が上京

許可取消運動

石城立憲青年會は大瀧發電  
所許可取消の運動に關し過  
般申合せた實行方法に基き  
中央當局に陳情の爲め本縣  
の選出代議士と打合せの結  
果廿九日に上京すべく決し  
た由

### 鎌田で遊興

平署が保護中

相馬郡松ヶ枝村大字原釜瀧  
澤澄次郎(三)は昨夜九時頃  
平町へ來り鎌田遊廓にて遊  
興中無斷家出の男と判明平  
署にて保護を加へて居る

### 小頭を殴る

平署嚴重取調

石城郡玉川村大字岡小名門  
馬園平(三)は同門馬忠作(三)が  
の兩名は去る五日頃同村消  
防小頭小松儀三郎と些細の  
事から口論を始め儀三郎に  
全治三週間を要する傷害を  
加へ平署にて取調中

### 不平受付

投書歡迎

遺失物の届 平署に遺失  
物の届に参りますと警官に  
イヤな顔をされるのが辛い  
ので遂に行かぬ事になるの  
ですが主なる拾得品は署  
前に掲示しては如何でせう

伊藤平署長の答 届け  
に來た場合署員がイヤな  
顔をすることは以つて外の  
事です充分注意をして置  
きませうまた拾得品の掲  
示も考へて見ませう

### ペスト警戒

平署の通牒

平署にては静岡縣下に於け  
るペスト益々蔓延の兆ある  
爲め管内全般に互り左の豫  
防警告を發した

▼ペスト傳染は鼠、ノミ  
南京虫、蚊等の媒介に因  
ること多きを以つて之が  
驅除を爲すこと▲ペスト  
菌を媒介する動物の棲息  
は米、雜穀類、糞糞、古  
新聞紙、疊表、雜貨等な  
るを以て當分の間該症地  
域より之れが移入を爲さ  
ざる事▲静岡縣に發生し  
たるは腺ペストの如し該  
疾病は普通二日乃至七日  
の潜伏期を経て惡寒戰慄  
を覺へ同時に劇しき疼痛  
ある腫脹を來し忽にして  
全身症状と化し重篤に陥  
るもの多し故に以上の症

### 昨日の地震

かなり強く

廿六日正午すぎ平地方にか  
なり強い地震があつた中央  
氣象臺の發表によると發震  
時刻は午後八分十分、初期  
微動時間九分十分、總繼  
續時間七分、性質弱震で震  
源地は東京の北東七十三キ  
ロ筑波山に近き結城附近に  
あたる

### 平町人事

死亡

△南町 齋藤雪子(三)  
△研町 當時石城郡津村佐藤慶夫  
(三)  
△立町 鈴木ナツ(六七)  
△胡麻澤 齋藤一郎(二)